

## 田村亜里インタビュー

### ●バラエティに富んだキャリア

**阪本:** 田村さんは、ずっと葉山に住んでいるんですか？

**田村:** 葉山は、元々祖父母が住んでいたんです。小学生の時は夏休みによく遊びに来ていました。私が実際葉山に住み始めたのは高校生の時からなんです。

**阪本:** 学校を卒業してすぐに仕事を始めたんですか？

**田村:** 服飾学校に通ってから、アパレルの会社で3年ぐらい働いていました。辞めてから1年ぐらいは遊んでいました。



その仕事を辞めるころからイギリスに興味があって、関わった仕事をしなくてイギリス雑貨のお店で3年ぐらい働きました。私、3年周期みたいで、3年ごとに何か変わっていることが多いんですね。

人と接することが好きですし、洋服は元々好きでした。でも雑貨にも興味があったり、色々やりたいことが出てくるたびに仕事を変えてきました。ずっと葉山に住んでいますし葉山が好きだったんですけど、子供のころ住んでいた都会の雰囲気も好きだったので、都会への憧れが消えなくて。その頃はまだ葉山の良さに気が付いていなかったのかもしれませんが。かと言って、「一人暮らしをして東京に住む！」というまでの強い気持ちはなかったんですね。

その雑貨屋さんを辞めて、また1年ぐらい旅行へ行ったりしました。

**阪本:** やっぱりイギリスへ？

**田村:** イギリスへも行ったんですけど、叔父がブラジルに住んでいるのでそこへ遊びに行きました。叔父は第2期の移民です。その後、「葉山に何かいい仕事があったらいいね」と友人と話していて、初めて飲食の仕事につきました。それは今までの私の経験をはるかに越えたスピードと気を使う世界だったんです。一生懸命やりましたが、性格がおっとりしているので合わず、1年ぐらいで辞めました。

**阪本:** その後はどうしたんですか？

**田村:** アクセサリーなどを扱っている雑貨屋さんで働きました。家からも近いしちょうど仕事を探していた私には、ナイスタイミング！でした。オーナーさんの都合でその店が洋服屋さんになり、そこで5年ぐらい働きました。

**阪本:** あ、そこで服買ってると思うよ。僕きつとそこ会ってるんだね。

**田村:** そうでしたか！そこを去年の暮に辞めたんです。友人からは心配されました。もう36ですし(笑)。でも私自身はのんびりしているのであまり心配していなかったんですけど。

**阪本:** 36歳には見えないねー！若い。

**田村:** ありがとうございます(笑)。

## ●そして松匠創美と出会う



**田村:** 葉山で一番仲良くしているお花屋さんの友人にも心配されていて、「何でもやるからいい仕事があったら紹介してね」と言っていたんです。そして、ここを紹介してもらったのが今年(2008年)のことです。

設計事務所というのは、私が全く知らない世界でしたし、家族経営と聞いて、お爺ちゃんとかご年配のご夫婦がやっている事務所を想像していたんです。でも家も近いし、やれるならやってみたい!と思いました。

ちょうど同時期に別の友人から海の方にある、ヨガスクールのスタッフを探していると紹介されました。雑貨屋さんも募集していた気になっていました。父が病気で病院へ行きがてら、店の前を通ると繁盛しているみたいだし……。前職であまり使わなかったので、パソコンはあまり得意じゃなくて。そんな私にできることはあるのかな?と考えていました。

そして面接当日、この会社の外見を見て、想像と全然違ってびっくりしたんです。働く場所がこんなに素敵なおうちでいいのかしら?!とワクワクしながらドアを開けたら、犬に歓迎されてさらに感激しました!。最初に久保さんと田中さんが出てきたので、「ご夫婦ですか?」と聞いてしまいました(笑)。雰囲気明るいというか、自然というか……。面接の内容も「どんな男の子が好き?」なんて聞かれて(笑)。

## ●不思議だけどつながっている

**阪本:** 田村さんは松匠創美のどこにピンと来たんですか?

**田村:** 自然というか。松匠創美のほかにも面接してみたい仕事があるから待ってほしいと言ったんですが、その時も快く理解してくれましたし、こんな私でもいいんですか?という私の気持ちに対して、「来てくれたらうれしい」と言ってくれたんです。必要とされたことがとても嬉しかったです。

**田中:** そのころ松匠では……という話なんです、「人を探すにも募集」というのではなく、紹介とかがいいね。と言っていたんです。そして先ほど話題に出た花屋さんに話をしたんですよ。ふっと空を見て、「あ、ちょうどいい子がいるよ。」と言って、その場で電話してくれたんです。

**田村:** その花屋さんの友人の中で、私ともう一人松匠創美に紹介してもいいなという人の候補がいたらいいんです。でもよく考えた時に、私の方が先々不安なので最優先だと判断したようです(笑)。設計のことはよくわかりませんが、思えば小学生の頃社宅住まいで、日曜日に父と住宅展示場に行くのがすごく好きだったんです。見取り図なんかを見ながら、「ここにこの家具を置いたら楽しいだろうな」。なんて遊んでいた時期があったことを思い出しました。

全く興味がない世界ではなかったんですね。なんだか不思議ですね。

**阪本:** 不思議だけど、つながっているんだね。

## ●新たな自分の発見

阪本: 今は、この会社でどういう仕事を担当しているんですか？

田村: 経理、製本、模型作製のお手伝いなどをしています。

阪本: じゃあ、これまでのキャリアからすると全く違うことをやっているんだね？

田村: はい。始めたばかりの頃は、「本当に勤まるの？」って周りのみんなに言われました。販売に向いていると良く言われるので、「販売の仕事を辞めちゃうのはもったいないね」とも言われました。でも今の仕事の話をする、みんな「よかったね！」と賛成してくれるんです。

阪本: 今は新しい仕事との出会いで、楽しくやっているんですね。今年の5月からここにいるって感じがなくて、ぴったりはまっていますよね。松田さん、久保さん、田中さんもみんながつながってるよね。

田村: 犬も一緒ですね。実家でハスキー犬を3匹飼っていたこともあって犬は大好きなんです。1人で留守番する時は、犬がそばにいてくれて、お互いお世話しあって、それが働き始めた最初の何か月かはとても助けられました。



阪本: 田村さんにとって松匠創美って何ですか？

田村: 「新たな自分の発見」ですね。今までの自分とちょっと違う自分を教えてもらっている気がします。色々考えることができますし、強烈な刺激ではないですが、ピリピリと効いてくる感じで。葉山っていいんじゃないかなって思っていますね。まだ、どっぷり葉山に浸かるという気持ちではないですけど。たまにはヒールの靴も履いて歩きたいです(註: 葉山はヒール靴の必要ない町です)。でも「葉山好きなんだよね」。って言っちゃってるんですけど(笑)。

阪本: それは、「こんなこと自分に出来たんだ」、「好きだったんだ」ということに喜びを感じられたんだよね。

田村: そうなんです。朝も早く起きるようになり、自転車に20分くらい乗って通勤していますし、以前とは違ってとても健康的な日々をおくっています。

## ●イギリス好き

阪本: 仕事以外の時間は何やってるんですか？ 例えば仕事が終わった後は？

田村: 今まで好きなように遊んでいたんですけど、最近は、「楽しい時間を親と一緒に過ごせたらいいな」と思うようになり、まっすぐ家に帰って、話をしながらごはんを食べる時間を大切にしています。たまに友人と食事に行ったりもします。

阪本: さっきの話の続きですけど、イギリスは何で惹かれるの？

田村: 音楽です。『Oasis』のデビューした頃の頃が好きで、はまっていました。アルバムが出る度に日本版、洋盤、LPをそろえて買っていました。ライブもたくさん行きました。

**阪本:** 自分自身でも演奏にトライしたり？

**田村:** ベースを。でも手がちっちゃくてあきらめました(笑)。



**阪本:** なるほど。音楽からイギリスが好きになったんだ。

**田村:** 音楽から入って、そこからファッションにも興味が湧いてきて。

**阪本:** つばったファッションしていたりしたの？

**田村:** そうですね(笑)。ラバーソールまでは行かないけど、ドクターマーチンを履いていました。友人ともいつもそういうファッションの話をして盛り上がっていました。

**阪本:** 田村さんは好奇心のアンテナがすごく立ってますよね。

**田村:** 何でも楽しめますし、興味があることに対してはけっこう動けるんですよ。今は「できる事をまずやる」という時期なんだと思っています。

## ●新しい自分を楽しんでいる

**阪本:** ここで新しい仕事と新しい自分を楽しんでいる、充実しているんだね。

**田村:** お陰さまで(笑)。まだこの会社のことで分からないことはたくさんあるんですけど。

**阪本:** 通常、出来上がったチームの中に飛び込むというのは勇気がいるけど、そんな感じでもないですね。ここは。

**田村:** 自分が引き寄せたというのがあると思いますが、人との出会ってすごいなって。本当に感謝しています。

今まで仕事を辞めていた時も「私は大丈夫」ってやってきました。目標をもっていないと言われたらそれまでなんですけど、私は目標を高くかけてどうこう、というタイプではないんです。いい意味で流されていくし、これからもそうありたいと思っています。焦るということはないんです(笑)。

**阪本:** 流されることが出来るって、ある意味「技」だと思いますよ。なかなかやろうと思ってもできることじゃないからね。そういう意味でも自然、ナチュラルなんですね。

有限会社 松匠創美

<http://hayama-ie.jp>

〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内 766-3

TEL: 046-876-3275 FAX: 046-876-3276